

WGS 会 手塚七五郎氏のお話 (2015-03-18) 新宿中村屋にて

鎌倉時代の三流の武将、ほとんどの方がご存じないと思いますが、吾妻鏡(鎌倉時代の歴史書(源頼朝から第6代将軍宗尊親王までの将軍記-1180(治承4年)から1266年(文永3年))に登場してくる武将の稲毛三郎平重成(桓武平氏の流れを汲む秩父氏の一族)なる人物がいました。何でこの人物のお話をするかという、早稲田の初代学長で三代総長である高田早苗さんが稲毛三郎平重成の子孫であるとのこと。多少早稲田に関係があるといえはるのです。

新宿の駅前に西条八十の碑があることはご存知と思いますが、西条八十が昭和4年、私が生まれた年ですが、東京行進曲という歌謡曲(作詞:西条八十、作曲:中山晋平)を作りました。歌詞は、①昔恋しい銀座の柳 仇な年増を誰が知ろ、ジャズで踊ってリキユルで更けて、明けりゃダンサーの涙雨、・・・④番に シネマ見ましょか お茶のみましょか、いっそ小田急で逃げましょか、かわる新宿あの武蔵野の 月もデパートの屋根に出る。というもので、「いっそ小田急で逃げましょか」という歌詞が小田急線のロマンスカーの前奏曲みたいになり、有名になって皆がロマンスカーに乗って箱根の方に出かけて行ったそうです。それで箱根への観光客が多くなったといわれています。私の住んでいるところはこの小田急線に乗っていきますと玉川を渡り、約20分で登戸という駅に着きます。この登戸という駅は、玉川のすぐ傍にあるのですが、そのすぐ近くに向ヶ丘遊園という駅があります。10年前までは小田急が経営していた向ヶ丘遊園は、有名で、よくはやってお客も多かったのですが、10年前に残念ながら閉園になってしまいました。この向ヶ丘遊園でおりると多摩丘陵があります。遊園地のあった隣の丘陵のところに枳形城という城があったところが城址になっていまして、枳形というのは四方が切り立っているのでそういう名前が付いているのですが、稲毛三郎平重成はこの城主であった人物なのです。関東地方は源氏の勢力よりは平家の勢力が強かったらしく、平将門の流れであったようです。従って、高田早苗さんもこの流れを汲んでいます。平将門から別れた分家が町田の奥の方に小山田という地名があり、そこに小山田城という城を築きまして、そこの三男坊主に生まれたのが稲毛三郎平重成という人物で壇ノ浦の戦いですごい功績があったので枳形城、向ヶ丘遊園、登戸近辺を頼朝からもらった。四万八千石といえますからたいした大きさではないと思いますが、彼は、頼朝の正室である北条政子の妹(綾子)を奥方に迎えたことから頼朝からは覚えもめでたかった。治承4年(1181年)平清盛の命に従わなかった東大寺をはじめとする南都の寺院勢力が対立した結果、清盛は、南都を焼き払い、焼失した伽藍の再建を認めなかった。その後、重源(ちょうげん)の進言により後白河上皇は、東大寺の再建を頼朝に要請した。頼朝は大軍勢を引き連れて奈良の東大寺を建久6年(1195年)、今から800年ほど昔ですが、再建し(落慶法要を)した。その時に一番の大将として従っていったのがこの重成であったといわれています。その間に奥方具合が悪くなって、枳形のお城に戻らなければならなくなり、関東に馬で帰れといわれ、頼朝から馬を賜ったそうです。その馬は真黒毛の馬で、3日間で奈良から神奈川まで帰ってきたので重成は、“三日黒”と名付けたそうです。しかし、帰った時には既に奥方は、残念なことに亡くなっていたそうです。

奥方が亡くなってからは、向ヶ丘遊園のそばの枳形城址の下のところにある廣福寺（枳形 6-7-1）で仏門に入り入道となったそうです。そこが彼の館跡で、彼のお墓と綾子のお墓があります。この廣福寺は真言宗のお寺で向ヶ丘遊園の駅からすぐ(徒歩 10 分)ですが、有名ではない畑 勘助という人物の墓があります。彼は、桜田門外の変のときに身を挺して主君をまもった武将のうちの一人でありまして、彦根城の出身である主君が殺されてしまったので彦根に戻ることができずに廣福寺で一生を過ごし、没後、ここに葬られ、お墓があります。

以上が初代学長 高田早苗さんの先祖に関するお話です。